



# PFASの評価に必要な分析技術

## Webセミナー

近年欧米を中心に急速に進む、PFAS（ペルおよびポリフルオロアルキル化合物）の規制強化に向けた動きを受け、環境中のPFASの検出や分解処理技術の開発、PFAS含有製品の環境適合性の評価といった取り組みがますます重要性を増しています。こうした取り組みにおいては、分析技術によってPFASを高感度・高精度に検出することのみならず、PFASの物理的・化学的性質を正しく評価することが重要です。

当セミナーでは、PFAS対策技術コンソーシアムより産業技術総合研究所の谷保佐知さまをお招きし、PFASの評価に活用されている分析技術として、国際標準化されている水資料のLC-MS/MS分析のほか、大気試料のGC-Orbitrap™-HRMS分析や燃焼イオンクロマトグラフィー（CIC）による総フッ素測定をご紹介いただきます。また、日東精工アナリティックさまよりCIC分析によるPFASのスクリーニングについてご紹介いただきます。さらに当社より、LC-MSによる生体内でのターゲットPFAS定量手法や、規制化学物質の評価に有用な分析システムなどをご紹介します。

製品や環境中の規制化学物質の評価に携わる皆さんに、お役立ていただける技術動向情報をまとめてお届けします。ぜひご参加ください。

### 開催概要

開催日時	2024年4月18日 (木)
開催方式	オンライン (ON24)
申し込み期限	2024年4月11日 (木) 17:00まで
参加費用	無料

※同業他社、代理店さまからの申し込みについてはお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
※下のリンク先からお申し込みください。セミナー視聴用のURLは、お申し込み時にご登録いただいたメールアドレスへお送りする予定です。

プログラムは裏面をご覧ください。



お申し込みはこちら [thermofisher.com/jp-envseminar](https://thermofisher.com/jp-envseminar)

thermo scientific

## プログラム

13:45~	ログイン開始	
14:00~14:05	オープニング	
14:05~14:35	<b>招待講演</b> <b>PFASの包括的な評価のための測定技術の開発</b>  国立研究開発法人産業技術総合研究所 PFAS対策技術コンソーシアム 谷保 佐知 さま	ベル及びポリフルオロアルキル化合物 (PFAS) は、フルオロメチル基やフルオロメチレン基などを有する様々な有機フッ素化合物の総称で、一部のPFASは難分解性で環境残留性などが懸念・指摘されています。また、環境中で分解してより残留性の高いPFASに構造変換するPFASもあります。このように、PFASは様々な物理化学性を有することから、单一の方法で測定し評価することが困難です。本セミナーでは、一般的に使用されるLC-MS/MSを用いた測定の他、GC-Orbitrap-HRMSや燃焼イオンクロマトグラフ (CIC) などを用いたPFASを対象とした様々な測定手法について紹介します。
14:35~14:50	質疑応答／休憩	
14:50~15:20	<b>招待講演</b> <b>燃焼-イオンクロマトグラフィー (C-IC) を用いたPFAS類のスクリーニング分析</b>  日東精工アナリティック株式会社 営業推進部 守屋 万紀子 さま	PFASは難分解性で残留性の高い性質から近年、研究・検査業界でもPFAS分析が活発になりつつあります。一方で有機フッ素量を測定することで、迅速かつスクリーニング的にPFAS類の存在を確認する方法が検討されており、燃焼-イオンクロマトグラフィー (C-IC) がその方法のひとつです。 弊社の自動試料燃焼装置とサーモフィッシュャーサイエンティフィック社製イオンクロマトグラフを組み合わせたC-ICによるAOF (吸着性有機フッ素) の分析についてご紹介します。
15:20~15:30	質疑応答	
15:30~15:45	<b>規制化学物質の迅速な評価に有用なGC-MSおよび無機元素分析システム</b>  サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社	当社には幅広いGC-MSラインアップがあります。安定性と費用対効果を重視した標的定量用のGC-MSと、未知化合物同定も可能な高分解能GC-MSについてご紹介します。併せて、RoHS規制対応や排水中の重金属測定で使用する高感度でハイスループットなICP発光分光分析装置と、1台で多様な原子化方法に対応できるフレーム・ファーネス両用の原子吸光分析装置をご紹介します。
15:45~16:10	<b>LC-MS: PFASのノンターゲット解析と生体内でのターゲットPFAS定量のポイント</b>  サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社	PFASはその有害性、難分解性から、人への健康被害が懸念されています。その化合物数は9000種以上あり、標準品がない化合物も多く、ターゲット分析のみで包括的に捉えることは困難です。前半では、Thermo Scientific™ Orbitrap™ Exploris™質量分析計とThermo Scientific™ Compound Discoverer™ ソフトウェアを用いたノンターゲットPFAS解析をご紹介します。PFASの中でもPFOS、PFOAを含む数十種類の化合物は、各国で規制が進んでいます。後半は、トリプル四重極MSを用いた規制対象PFASの定量ポイントを、動物血液サンプルを例にご紹介します。
16:10~16:25	質疑応答／クロージング	

※セミナーの録画・録音、画面のスクリーンショットはお控えください。また、それらの二次利用もご遠慮ください。

※プログラムは予告なく変更となる場合があります。

※当日の進行状況により、各演題の開始時間が前後する場合があります。



お申し込みはこちら [thermofisher.com/jp-envseminar](http://thermofisher.com/jp-envseminar)

研究用にのみ使用できます。診断用には使用いただけません。

© 2024 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.

All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.

実際の価格は、弊社販売代理店までお問い合わせください。

価格、製品の仕様、外観、記載内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

標準販売条件はこちらをご覧ください。 [thermofisher.com/jp-tc](http://thermofisher.com/jp-tc) LCMS281-A2402OB

## サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社

分析機器に関するお問い合わせはこちら

TEL: 0120-753-670 FAX: 0120-753-671

E-mail: [Analyze.jp@thermofisher.com](mailto:Analyze.jp@thermofisher.com)

[thermofisher.com](http://thermofisher.com)

thermo scientific